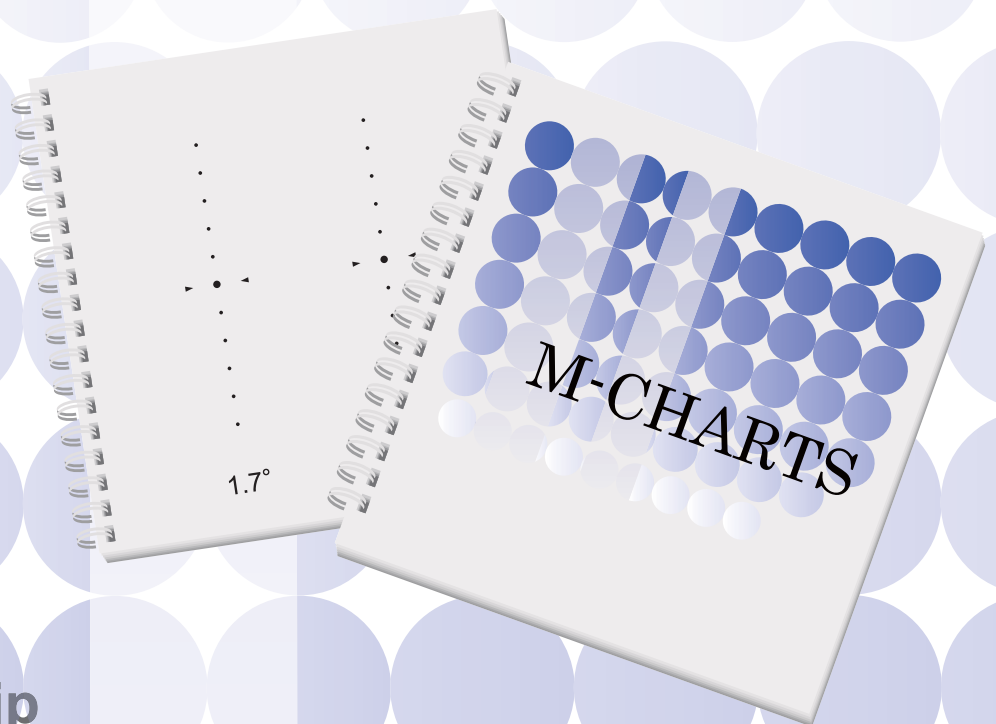


The advanced way to
quantitate metamorphopsia

M-CHARTS™

KDM-3



www.inami.co.jp



Find us on Facebook!

www.facebook.com/inami.co.jp

● M-CHARTS

変視を認知するためには、ある一定の長さの連続した直線の網膜面への刺激が必要です。この直線を、間隔の狭い点線から徐々に間隔の広い点線に変えることにより、次第に被験者は変視を認知しなくなります。本表はこの現象を応用し、変視を簡便にしかも短時間に定量的評価することが可能です。

● 検査対象

変視症を伴う各種黄斑疾患（黄斑前膜、黄斑円孔、加齢黄斑変性 など）

● 検査条件

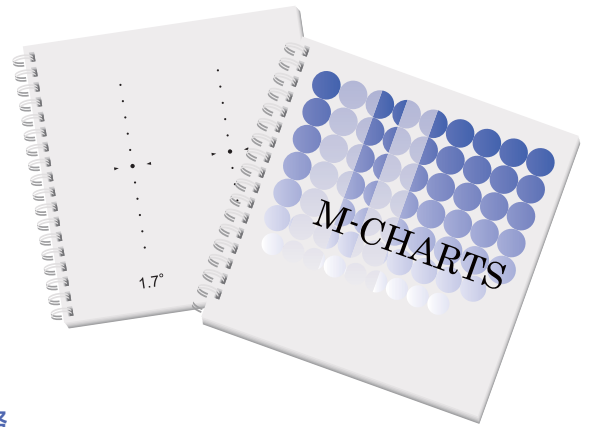
検査距離 30cm とし、近見矯正下にて測定します。（片眼遮蔽・明室下）

● 検査表の概略

検査視標となる直線および点線の全長は視角 20°、点線の個々の点は視角 0.1°、固視点は視角 0.3°、線の種類は直線および点の間隔が視角 0.2°から 2.0°までの 19 種の点線からなります。

検査視標は固視点を通る 1 本線と、中心暗点のある症例を対象とした固視点から 1°離れた 2 本線のタイプがあります。

また、低視力の症例を対象とした、点線の個々の点の視角が 0.5°からなる太線のタイプがあります。

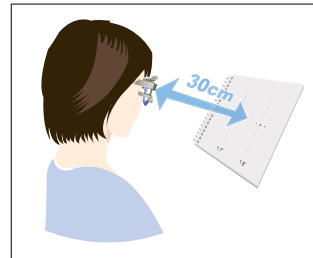
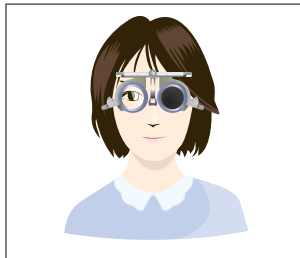
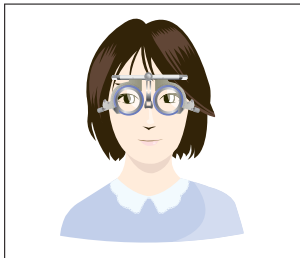


価格

KDM-3	変視症定量評価チャート M-CHARTS Ver.2.0	¥ 29,800
-------	------------------------------	----------

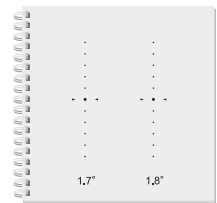
● 使用方法

検査距離 30cm、近見矯正にて、明室で検査を行います。検査は片眼ずつ行います。非検査眼はアイパッチ等で遮蔽します。



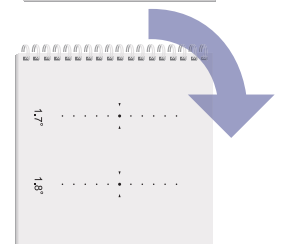
① 縦方向の変視の検査

チャート縦の直線を用い、中央の点を固視させ、線のどこかに歪みがないか確認します。もし歪みがあれば、次に最も細かな点線を用い、同様に歪みがないか確認します。そして歪みの自覚が消失するまで、順により間隔の荒い点線を用い検査を進めます。歪みの自覚が消失した点線の視角をもって、縦線の変視量(MV:metamorphopsia score of vertical line)とします。



② 横方向の変視の検査

チャートを 90°回転し、横線で同様に検査を行い、横線の変視量(MH:metamorphopsia score of horizontal line)を求めます。

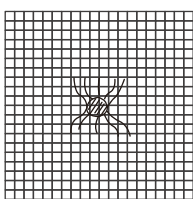


③ 2本線、太線のタイプを用いた検査

黄斑円孔のような小さな中心暗点がある場合は、2 本線のタイプを用います。また、加齢黄斑変性など、視力が悪く、点線が見えない場合は、低視力者用の太線のタイプを用います。

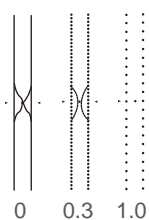
● M-CHARTS とアムスラーチャートの比較

AMSLER CHART



術前

M-CHARTS

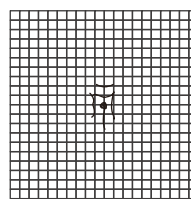


変視量(Ⅱ)
MV=1.0
MH=0.9

変視量の表記例

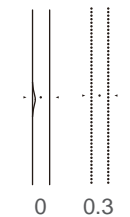
1本線タイプ : MV(Ⅰ)= 0.3°、MH(Ⅰ)= 0.5°
2本線タイプ : MV(Ⅱ)= 0.5°、MH(Ⅱ)= 0.7°
低視力者用 : MV(B)= 0.4°、MH(B)= 0.4°

AMSLER CHART



術後1ヶ月

M-CHARTS



変視量(Ⅱ)
MV=0.3
MH=0.5